

他人事じやない！

認知症

記憶力や判断力が徐々に失われていく脳の病気「認知症」。

認知症はどんな方でもなる可能性がある病気です。札幌市の統計では高齢者の10人に1人が認知症であると考えられています。認知症になっても安心して暮らしていただけるよう、まずは認知症のことを知ってみませんか。

市のホームページも
ご覧ください！

札幌市認知症ナビ 

認知症って どんな病気？

認知症とは、何らかの原因で脳細胞が死んだり、衰えていくことで、社会生活や対人関係に支障が出てしまう状態のことを指します。原因となる病気にはいくつか種類があり、アルツハイマー型と脳血管性の2つが認知症全体の約8割を占めています。症状には物忘れや妄想などのさまざまなものがあります。

認知症にはさまざまな症状があります

脳機能の低下により起こる症状例（中核症状）

物忘れ

新しいことを記憶できなくなり、つい先ほどのことさえ思い出せなくなってしまう。



見当識の低下

自分の居場所や、いまが何月何日かなどの基本的な状況（見当識）が分からなくなる。



理解力・判断力の低下

思考スピードが低下して複数のことを考えられなくなり、状況の変化に混乱しやすくなる。



心の状態や人間関係、環境などの影響で出てくる 精神や行動に支障が起こる症状例（行動・心理症状）

不安・うつ状態

自分の変化に不安や焦りを感じる。また、能力の低下を自覚することで自信を失い、うつ状態に。



妄想・幻覚

財布などをなくし、「誰かに盗まれた」と思い込む。「誰かが家にいる」などの幻覚、幻聴が出る。



徘徊※

自分の居場所や目的地、帰り方などを忘れ、外出したまま帰れなくなってしまう。



※行方不明の認知症高齢者を、タクシー、郵便局、ラジオ局などが協力して検索するネットワークがあります。最寄りの警察署生活安全課に電話で検索依頼を。豊平警察署は ☎813-0110。

加齢と認知症の物忘れ は何が違うの？

年を取れば誰でも、物事がすぐに思い出せなかったり、新しいことを覚えるのが困難になったりしますが、認知症の物忘れはこのような加齢による物忘れとは違います。

加齢による物忘れと認知症による物忘れの違い（一例）

	加齢	認知症
忘れ方	体験したことの一部を忘れる（ヒントがあれば思い出す）	体験したこと自体を忘れる（ヒントがあっても思い出せない）
物忘れの自覚	忘れっぽいことの自覚あり	忘れたことの自覚がない